編集発行／
社会福祉法人
琴平町社会福祉協議会
仲多度郡琴平町榎井891－1
TEL 0877-75-1371
E-mail info@k-wel.or.jp
HP http://www.k-wel.or.jp

琴平社協

福祉 ことひら

2024
11
第117号

1 2 3 … チャリティー作品即売展の50回を振り返る
4 5 6 7
8 9 … どりーむまつり、共同募金
10 … 第50回チャリティー作品即売展、
善意の寄付・野菜寄付お礼、切手等収集ボランティア

今月の特集

チャリティー作品即売展の50回を振り返る

チャリティーの50回を振り返り、これからを考える。

今年の12月で50回目のチャリティー作品即売展を迎えます。コロナ禍で中止になった期間もあるので、チャリティーが始まって50年以上の歴史があります。今回の記念懇談では当時を振り返りながら、これからのチャリティーを考えるうえで地域づくりを踏まえた懇談をしていただきました。

チャリティー実行委員会
委員長　田中 武 氏

チャリティーの始まり

新原▼第1回からは主催が琴平文化クラブ・琴平美術家協会で、第12回から社協に主催が移って、平成24年から実行委員会になって現在に至るという背景があります。

越智▼もっと前は演劇をしていたらしいですね。

田中▼文化協会の中の琴平山文化人クラブが一番力を持っていたんです。その他に位野木さんたちのグループがあって、習字が上手な方、絵の上手な方がいて展示会をしていたんです。そこから始まっていったと思います。今の大きな楠木のあるところが琴平町立幼稚園でした。そこで即売会もあって現在琴平小学校の体育館のあるところが木造の体育館で、その片隅にステージとピアノがあって机が並んでいて、そのピアノのあるところがお茶会のスペースだったんです。そこから始まっていったと思います。

越智▼神明町に警察署があった頃、横の武道館を会場にしたこともありますよね。

山野▼子供のころ、武道館へ原爆の写真展を見に行ったり映画会があったりね。

田中▼よこたの写真館と山下の本屋さんの並びに警察の柔道の稽古場があったんです。

越智▼今では珍しくないけれど、蘭の鉢を栽培している方達がたくさん持って来てくださって売っていたり、その時から絵画もあって、趣味のものがあって助け合い運動をしていたと思います。

山野▼公会堂の劇なんかは、知っている人は少ないと思いますね。

越智▼祖母に連れられて見に行ったのを覚えています。

門脇▼今の若い人には想像ができないかもしれませんね。

田中▼旅館のご主人が本格的な歌舞伎を踊ったりしたんですよ。本格的なお芝居をして観光客を招待したりしてね。

まちの移り変わりとチャリティーの変化

越智▼まちの移り変わりと一緒にこのチャリティーもどんどん変わってきたような気がします。歳末助け合い運動というのがなくなって、平成2年第18回の時には『チャリティー作品即売展』となりました。

門脇▼おそらくその時点では、歳末助け合いではふさわしくないからチャリティーに切り替えようという議論があったのかなと思います。

越智▼使い道もどのようにするか、準備からいろんなことをかなりやりましたし、先ほども大ホールに作品がいっぱいあったんですか？と質問があったように、作品が138点。

門脇▼その内訳はどのようになっていますか？

越智▼実は社協がするとなった時に地元だけでなく、いろんな県内の先生にお願いに行ったのと、町内の先

歳末助け合い作品展・チャリティー作品即売展の経過

年	経過
昭和48年	第1回「歳末助け合い作品展」主催を琴平文化クラブ・琴平美術家協会で開催
昭和58年	社協法人化
昭和59年	第12回から、主催を社会福祉法人琴平町社会福祉協議会として開催
平成2年	第18回から、「歳末助け合い」から「チャリティー」に名称変更
平成24年	第40回から、主催を実行委員会として開催
令和2年	コロナ禍で2年間中止
令和6年	第50回を迎える

琴平町文化協会
副会長　山野 弘子 氏

生方から教えてもらって「あそこ行ってこい、ここ行ってこい」と言われて、一軒ずつ色紙を持ってお願いに行ったりして作品を頂きました。小西嘉純先生からは、「美術名鑑で四国ぐらいで声かけてみたらどうか」と言われ、高知や松山の先生方で作品を送ってくださった方もいました。

山野▼ すごく行動範囲が広がりましたね。

門脇▼ 非常に事務処理も煩雑でたいへんだったと思います。かなりエネルギーを使ったでしょうね。

越智▼ 楽しかったです。普通なら会えないような先生方に会えました。大西忠夫先生もそうだったんですけど、当時、四国電力の社長が中川以良さんという方で、絵を描いていて、高松の本社へ絵を受け取りに行きました。大西忠夫先生は善通寺のご出身たっだので、琴平はふるさとに近いところだし小さい時から知っているということでした。

門脇▼ 今も善通寺市美術館に大西忠夫記念館としてたくさん展示されていますね。非常に貴重な経験をされましたね。

越智▼ 毎年行くので、だんだんと先生の工房にまで入れて頂くようになりました。それも琴平だとか、ご紹介くださった先生方の繋がりがあって、人として繋っていけたのだと思います。町内の商店から広告としてご協力頂けることもとてもありがたいことです。本当にみなさんの力です。琴平のまちはすごいなぁと思いました。

山野▼ 裾野がものすごく広がった感じですね。民生委員をしていた時に、広告料を頂きに行きましたね、このくらいが3千円ですとかこれが6千円ですとか。

門脇▼ 先人が作ってくれた歴史を可能な範囲で残していかないといけませんね。

山野▼ すごく定着しましたね。これがなかったら年末が迎えられないくらい、必ず新原さんの顔とチャリティの広告の大きなのを見ないとね。

越智▼ イベントになりましたね。

新原▼ 日用品とか雑貨とか集めて役場前にテントが並ぶようになったのはいつぐらいからですか？

越智▼ 日用品とか集めるようになったのは、会場がこっちに来てから、社協がするようになって2年目3年目くらいからかな。最初は数量が多くなかった。だんだんと増えてきて15回の時に、鉢物、手芸作品、日用雑貨、野菜、それからお茶席は最初からありましたね。餅つき、たこ焼き、綿菓子…。

山野▼ 広がってきたんですよね。

当初より継続してきたお茶席

田中▼ お茶席の話でいうと、昭和58年には200円で販売してますね。コロナ禍前に300円に上げましたね。文化祭と奉賛会のお茶会はいまだに200円なんです。お菓子を買ったら200円飛んでしまいますね。

新原▼ 当時の値段が200円でいまだに300円というのはびっくりですね。

田中▼ お茶会ひとつにしてでもものすごい苦労があるんですよ。先生方はそれぞれ個人の意見がありますからなかなかひとつにまとまらないんです。

越智▼ 石井房行先生がお茶とかお花とかのグループをひとつにまとめてくれたのはいつ頃ですか？

琴平町文化協会
会長　門脇 俊文 氏

田中▼石井先生がああいうお人柄でみなさんが割と静かについていきましたね。今も数えたら三流派で16人くらいお茶の先生がいたんですね。今はもう煎茶を入れて7人くらいしかいませんね。

越智▼それまでは、「今年お願いできるのはどこでしょうか?」と聞きながらしないといけなくて手探りでやっていたのが、石井先生が集まりを作って頂いてチャリティーの順番を決めてくださって非常にありがたかったです。それだけの流派が揃って在るっていうのも、月釜をずっとしているというのも、丸亀市とかだったらあるんでしょうけど、町でいったら琴平ぐらいでしょうね。

田中▼月釜もコロナ禍の前から止まってしまったんだけれど、一番最初は山中象堂さんの裏の方に松琴亭っていうお茶室があって、そこから始まったんです。そこで始まって、狭いからと松尾寺さんへ移ったんです。琴平の月釜は60年以上ずっと続いてきたから。コロナ禍前で先生方ができないからと今は止まってるけれども、考えたらものすごいもったいないことをしてるんです。

越智▼桜の抄のところでお庭が広くて回遊式の庭で、お茶室が少し小高いところにあって。

山野▼あそこは思い出に残ってますね。蔓とかあって雰囲気があってこんなところがあるのかと思ってね。

越智▼そういう歴史をちゃんと書いておとかないといけませんね。

門脇▼こうやって聞くとそうかそうかということばかりですね。

越智▼そういう意味では、琴平では文化と福祉がつながったのかなと思います。それだけのいろんな作品が並んでるのを買わないけど見るだけでも展覧会じゃないですか。素人の私もその中にかけさせてもらったりして（笑）、そういう中で一つの行事に育っていったなと思います。表でたこ焼きを売ったり綿菓子を売ったり餅つきもあったりと、子どもたちも参加できるような仕組みへと広げていくことができたなあと思います。

最近のチャリティーの課題

田中▼最近は、民生委員さんの担当アンティークの部で販売する品物が少ないんですよ。書道の部、絵画の部もお願いに行く人がなくて、ほとんど鬼籍に入られた人で。

新原▼コロナ禍前と今とでは様変わりしているというか、物が集まらなくなってきたという現実があります。これからのチャリティーを考える上で転換期だと思っています。全く物が集まらないです。

山野▼贈答品が今はほとんどないですね。昔はお盆とかお茶碗とかお鍋や頂き物がたくさんあって…これは社協さんに丁度いいなと思ったりね。

新原▼タオルもないですよね。昔はタオルがたくさんあったんですけど、もうないですね。

山野▼地元の太鼓台の夏祭りでも不用品を集めるのがあるけど、もう寄らんだろうと思いますね。だから社協さんも同じだろうなと思いながら。

田中▼結婚式も葬式も簡素化されましたからね。

越智▼昔はお葬式のお砂糖とか量がすごかったんですよ。それもなくなりました。今までのやり方ではもうできない。

山野▼要らなくなった服も、今頃はメルカリでみんな売ってしまったり。これは社協に丁度いいな、とかじゃなくて若い人はどんどん売ってしまうからね。

門脇▼チャリティーに出品される品物そのものが品薄になったというのがストレートな課題になるんでしょうかね。

コロナ禍を経て

新原▼明らかにコロナ禍前と今とでは収益も全然違います。

越智▼美術作品というのは完全に贅沢品になってしまいましたね。

山野▼そうですね。できるだけ断捨離して、大きいもの重たいものは若い人は要らないんですね。軸とか作っても要る人がいないですね。

越智▼日用品が出回ることがなくなって、自分の趣味のものを少し置いておいたらいいだけという若い人の生活スタイルになりましたね。お家から衣類が出てきたのがなくなって、代わりに何が増えたかというと、店仕舞いするからと残っていた衣料とか靴とか小さな電化製品とかも頂いたりとかで、コロナ禍前は少しそれで埋まっていましたけれど、コロナ禍以降はそれもほとんどないですね。

新原▼資料を見ると、平成27年第42回の時が過去最高で195万円の収益。一昨年は大体100万円。これだけの差が出ているということです。

琴平町社会福祉協議会
会長　越智 和子 氏

門脇▼コロナ禍の3・4年のブランクがいろんなものに影響してきましたね。例えばいろんな会があります、去年までは何とかがんばってやってきたけれどもコロナ禍で段々と自然消滅したり、この際やめますとかね、全ての世界で減ることはあっても増えることはまずない。減るのをいかに防止するか、継続することがいかに難しいかですね。

新原▼ただ広告料に関してはさほど減ってないんです。

門脇▼やはり出品物がないんですね。

越智▼子どもの制服とか子どものものをという、子育てグループの人たちが参加してくれて新しく去年から始まりました。何か焦点を替えていくやり方が必要なのかと思ったりします。

山野▼確かに、制服とかランドセルでも高いでしょ。中学高校は制服もものすごく高いでしょ。たぶん家計を圧迫していると思います。若いお母さんたちの要望や希望があったら、手間はかかるけどすごくいいですね。おもちゃなんかもあるんですね。お茶席はやはり人気がありますよね。

越智▼お茶席は正座が苦手という方には椅子席にしたりとか、先生方もいろんな工夫をしてくださっています。おでんの売り方も、前は大きな鍋で売ってたんだけど、一昨年からは最初から袋に入れて、持って帰れるようにしてコロナ禍後はそこで食べるのを止めました。再開自体をどうするかも実行委員会でみなさんが決めてくださって、その時に止めるという話になるかなとも思ったんですけど、「ここまでやってきたことを減らしたらいかん、もっともっと休んでたらやり方がわからなくなって若い人に伝えることができない、だから自分たちができる間に次の世代にちゃんと伝えなきゃいけない、だからできるやり方でしましょう」と実行委員会さんたちの決定で再開した。

門脇▼何でもね、会を絶やすのはものすごく簡単です。明日からやめようといったら、それで20年30年続いてきたことでも一瞬にして消滅してしまう。いかに継続が難しいか。絶やさないように努力することが大きな課題。規模が縮小されてでも本質的なものを根底に残していくというのが必要だと思いますね。そうしないと歴史は残らないですよ。歴史をいかに残すかを共通認識で取り組んだらちょっと違ってくるように思います。

越智▼50年の歴史の中で、県内の社協が見に来られた。もう一つは三越が見に来た。先生方の作品がみんな集まっていたので、「お宅はどういう売り方をしているのか？」と見に来ましたね。始めることもたいへんだし、続けることの大変さもある、どういう方法を取るかをいろいろに考えていく。ただ去年と同じことをするのではなくて、いろんな人との話し合いやいろんな人の知恵があってこの50回というのがつながってきたのかなと思います。本質を見失わないことはやはり大事だとやってきた中で思いました。

門脇▼四国新聞が三越でチャリティーを長く主催していた。昔は出展品に四国新聞が値段をつけるんですよ、それが売れ残った時に入札ということだったらしいです。現在、四国新聞がチャリティーを撤退した。コロナのことが影響したとのこと。

越智▼そしたらうちの実行委員会はすごい。できるところからやろうってね。

門脇▼辞めるのは簡単。いかに継続して種火を残していくのが大切。

新原▼私が入社してから門脇さんと山野先生は、毎回チャリティーに出展してくれているがどのような思いで出展してくれているのですか。

門脇▼皆さん方が努力と熱意をもってやっている。私なりに社会貢献をという単純な考え。

山野▼微々たるものですが、越智さんや新原さん以外にもたくさんの人が携わって総合センターに運んだり、値札をつけたり整理したり裏方の皆さんの苦労がいつも私の頭にある。できるだけ売れてほしい、安い値段でできるだけ買ってほしい。

新原▼参加者から「これ安すぎるわ」とかもあったり。

全員▼（笑い）

山野▼アクトでもチャリティーをたまにするが、なかなか売れない。やっぱりスタッフの苦労が、「あぁ今日は雨がふっじょる」「今日は雪、こんな中で」など、特に家でいて思う。「もう片付け済んだやろうか」と。

新原▼立ち上げから実行委員会として田中さんはどうでしたか。

田中▼私も長い間自分はお茶席だけをしていたような気がするんですよね。当日の朝、オープニングに何かしてはどうかというのは助言した。それはコロナ前でした。また、私も山野先生と一緒でほしい人には安くあげてもいいなと思うし、でも、勝手に値段を決めて持って帰ろうとする人がいるから、意地になって売らないこともあった。せっかく皆さんから協力してもらっているから、それは大切だと思う。

門脇▼交渉ができるよという雰囲気は出してはいけない。原則通りに行ったほうがよかったと後でなる。

田中▼去年、反省会のアンケートで「売るものがない」との意見があって、どんなにしたらいいのか、その当時の作家さんにお願いに行っていた経緯もあり、同様にお願いに行ったらどうかと思う。

山野▼習字で依頼する先生も減っている。

門脇▼重鎮がいた時代とは変わっている。減ってきている

田中▼門脇先生一人にお願いして、絵画の方も代表になって責任があるから気の毒ですけど。

門脇▼ほんならちょっとようけ出して。

全員▼（笑い）

門脇▼「いろんなものに参加してもらう」これが琴平のチャリティーの基本で、例えば善通寺市は美術展をしており、社協としての収益が出ている。

越智▼琴平は町の人が集まって皆でやっている。この雰囲気は違うなと思う。

門脇▼琴平独自でやっていくのも大切。善通寺市は一例としてね。趣旨が違うのでね。

越智▼専門性から値段をつけるのは先生方にお願いしている。中には値付けを任すという先生もいたが、そうした場合にもお願いに行く中で値段を聞いてきちんとやり取りしながらやっていた。それが遠方に足を運んでとなると非常に難しい。

門脇▼日常業務の中、社協職員がやるのは大変難しい。業務に弊害が出てくる。

越智▼作品展を続けるためにこれからどのようなやり方があるかは手探りをしていかなければいけない。実際に収益を上げないとその収益で子どもたちにクリスマスのプレゼントをしたり、生活の面で厳しい人に民生委員を通じて、頑張ってくださいという気持ちもお伝えする。その他、ちょっとこ場の費用を捻出したりなど、地域の皆さんが福祉に関われる費用を捻出したり、備品を買い替えたりするのにも使わせてもらっている。品物が無くなったらいいではなくある程度収益も欲しいなと欲張りなことを思いますので、広告スポンサーを何とか保っていることはありがたいです。今これが一番大きいかな。

門脇▼去年が96万円の収益。

新原▼そうですね。100万円弱ですね。

門脇▼1億6千万円の社協の予算額からいったらちょっと、ごく一部やわな。

新原▼いやいや地域活動としてこれは大きいです。

田中▼こんな世相の中でチャリティーとしてはよく集まったと思う。

門脇▼集まったら関係者に配布して資金に充てるのを社協の職員がしてくれている。

新原▼実行委員会の方達がよく引き受けてくれて、民生委員やいろいろな人にしてもらっています。チャリティーに携わっていただいているのが大きいので、その力がなかったらできません。

田中▼琴平社協は婦人会がなかったらできない。

全員▼（笑い）

門脇▼社協の存在が知れ渡っているので、行政にももう少し協力していただきたい。

越智▼最初のころ職員は、女性しかいなかったので、民生委員がお手伝いただくのと当時琴平保健所があったが、保健所が関りのある障がい者の方たちが、良くテント張りなどを協力してくれたこともあった。夕方になって役場の駐車場に車がなくなると、3人4人と体のがっちりした人たちが徐々に手伝いに来てくれていた。私は感動していた。

門脇▼越智会長の気持ちが皆を動かせている。

越智▼相談に来ている人たちにも一緒にやりましょうと伝えていたら、我々が困っていたら一緒にやってく

ださる人がいる。大勢の人とかかわる中で教えてもらった。四国電力の社長から始まって、他人との交流がしづらい若者からも支援がある。それが琴平の底力だと思う。

田中▼この積み重ねが全国に琴平社協が知られて、視察にも見えている。

越智▼人と人とがつながること。何とかこれからも続けていきたいと考えている。皆さんに知ってもらうための取り組みが必要。

門脇▼困った時になって社協に言えば、何とかしてくれると言うがもう少し社協の努力・存在や実態を知っていただきたいと考えている。もう少し行政に理解してほしいと考えている。何かあれば社協にということは大切である。職員の皆さんはしんどいでしょうが。実態が伴っている。

田中▼評価しない人がいるかもしれないが、今までの積み重ねが、大橋謙策先生の援助であったり、琴平社協の特徴は困難ごとを全部引き受けてそれを解決しようとすると何かで読んだ。

山野▼地域に問題があれば社協に相談しようとなる。関わってもらえてありがたいと思う。

越智▼職員が地区ごとに担当になることによって、地域につながりが持てている。

門脇▼シャントセナの機関紙を出すだけでもありがたい。活動状況を平たくわかりやすく伝えている。

これからの将来像

新原▼今年はチャリティー50回目となるこれからの琴平町がどんな町になってほしいかご意見をいただけますか。

山野▼子供たちが一生懸命チャリティーの手伝いをしたり、中学生も高校生も手伝っている。自分が手伝って役に立ったとの子供の気持ちが、成長する中で大切です。婦人会もあるが高齢で新しい人が増えない中で、小中学生・高校生に関わってもらうことが大事。

門脇▼土壌づくりが大切で、若い人たちにつなげていくことが大切。このような活動を続けていってほしい。日常業務の忙しい中で大変だが。若い方の参画機会を作ってほしい。結果として社協の存在が伝わればいい。1～3年後につながっていく。

新原▼8月の終わりに地域づくり懇談会を4地区で開いたが、少子化についての課題が挙がって、子供を大切にしなければとの話もあった。

門脇▼若い子の参加を増やす中で、文化協会の芸能発表でも子供が出て、90歳以上の方の出し物で一生懸命な姿を見る中で、お年寄りが僕たちを引っ張ってくれている。頑張っている姿が次につながってくる。引っ張ってくれているんだなと感じている。かっこいい言い方ではないが、文化協会の中で次につながってきている。若い世代になかなかつながっていないが、とにかく次の世代につなげていくための努力は必要である。

田中▼チャリティーの日には協力者に高齢者の方が多い。琴高生の協力は頼もしいが町内の生徒がどれほどいるのか。次につながる若い人が必要だが。栄町や富士見町には児童が全くいない。それを考えるとお母さん方を一つの団体として引き込めないか。婦人会も若返りして大きな力になってくれているので。

越智▼2002年に中学校からいただいた参加生徒の申込のFAXに「絶対に手伝いに行く」と書かれていた。琴平中学校の子供たちは、チャリティーと年末のおせちボランティアに来てくれる。学校に新しく赴任した先生がわからない中で、生徒たちが主体的に動いている。琴平町は不思議な町ですねと先生から言われたことがある。中学までは良いが、高校になると他に行ってしまう。

門脇▼琴高生徒の構成をみるとまんのう町が大部分であり、琴平町は少ない。町内から琴平高校に行くのは少ない。町外からの生徒が多いとのことは仕方がないのであるが、実態はそうである。大きな目で見ると、町外からの生徒がチャリティーに参加するのも良いと考えている。

新原▼チャリティーに携わった生徒たちが琴平町に戻って循環型になればよい。

門脇▼新原さんが80～90歳になった時に、チャリティーをやってよかったと思えばよい。

越智▼長い先を見据えながら、職員たちと頑張っていきたい。よろしくお願いします。

新原▼最後に何かありますか。

田中▼取り留めのない話で解決策はないが、昔は本当に活発だったがなくなってくるのは寂しい。実行委員会会長になっている間は嫌われても頑張っていきたい。

門脇▼紆余曲折がある、その中で規模を小さくしても辛抱して当座を凌いでいくことが大切である。

新原▼以上を持って、懇談を終了します。今年のチャリティーもよろしくお願いします。

5年振りに「絵本文庫どりーむまつり」を開催

子育てに於いて読書が果たす重要性を保護者に知ってもらうためのフォーラム「絵本文庫どりーむまつり」が9月22日（日）琴平町公会堂で開催されました。

新型コロナウイルスの影響で長年実施することができず、実に5年振りの再開でしたが、総勢112名のたくさんの方に足をはこんでいただきました。

絵本作家のスギヤマカナヨさんをお迎えし、「絵本で繋がる絵本で広がる～創作秘話、子育てからワークショップまで～」と題して講演をいただきました。

子どもたちの心の成長を願った多くの作品やワークショップに、子育てのヒントがいっぱい詰まっていました。

スギヤマさんの深い愛情に包まれたとても素敵な時間でした。

一人ひとりが
「かけがいのない存在」
なんだよ。
絵本『ぼくだけのこと』を
題材にしたワークショップを
通して子どもたちに
伝えていること。

【ワークショップ】

午後は、スギヤマさんの著書である「ぼくのまちをつくろう！」を題材にしたワークショップを実施し、31名の子どもとその保護者が集いました。

スギヤマさんの絵本の読み聞かせの後、ワークシートを使って参加者が思い思いの「まち」を作っていきました。

作業中はスギヤマさんから丁寧に声をかけてもらい、どんどんと想像力が膨らんでいく子どもたち。会場は笑顔で溢れました。最後に参加者全員の作品をつなぐと一つの大きな町に！

ワークショップの終盤は、一人ひとりの作品発表。講評はスギヤマさんがワークショップをする際にとても大切にされていることだそうです。

恥ずかしながらも、自分の作品に自信をもって説明をしている子どもたちの姿に元気と勇気をもらいました。

【結びに】

久し振りの「絵本文庫どりーむまつり」に、参加いただいた皆さんの笑顔が何より嬉しく、開催できたことに感謝申し上げます。

社協職員の皆さまをはじめ、ボランティアに従事してくださった皆さま本当にありがとうございました。

「ここで子育てしてよかった！」と思える町にしたいと、私たち「415のわ」は絵本文庫「どり～む」を拠点に地域の居場所・まちづくりに励んできました。

そして、これからも子どもたちの健やかなる成長を願い、応援できるよう努めて参ります。

引き続きよろしくお願いいたします。

共同募金

今年もご協力ありがとうございました。

錦秋歌舞伎

石段マラソン

琴平中学校

琴平小学校

榎井小学校

象郷小学校

第50回チャリティー作品即売展

キャッチフレーズ「広げよう心をつなぐ、チャリティーの力」

みんなで支え合うことを目的にチャリティー作品即売展を開催します。この収益は全て、子ども支援、困窮支援、高齢、障害者支援等様々な琴平町の地域福祉推進のために使われます。ぜひ、多くの皆様のご来場お待ちしています。

開催日時 12月7日（土）9時～15時
8日（日）9時～14時

場　所 町役場前駐車場
及び琴平町総合センター

募　集

・日用品　・電化製品（壊れていないもの）
・雑　貨　・かばん　・衣類　・タオル
・お野菜　等

※社協までご持参いただくか、ご連絡いただけたらお伺いさせていただきます。（11月25日以降）

※壊れている物、汚れている物は回収できませんのでご了承ください。

＜屋外＞

- 綿菓子
- 焼き鳥
- くじ引き
- 制服リユース
- おでん
- ぼた餅、ばら寿司
- うどん　等

＜屋内＞

- 作品・書
- 地元銘菓
- 日用品、雑貨
- 衣類関係
- ぜんざい、郷土料理
- 木工作品
- 干支作品
- お薬相談会　等

※詳細は、ちらしをご覧ください。

善意の寄付

皆様からの善意の寄付は琴平町の地域福祉に有効に活用させていただきます。厚く御礼申し上げます。

令和6年6月1日～令和6年9月30日まで

一般寄付として

匿名　様より	12,970円	匿名　様より	30,000円
匿名　様より	1,000円	匿名　様より	1,406円
匿名　様より	100,000円	匿名　様より	金一封2件
久保田　誠　様より	100,000円	【使途指定寄付金「子育て支援】	
匿名　様より	10,000円	こんぴらライオンズ	
匿名　様より	1,770円	クラブ様より	30,000円

香典返しとして

匿名　様より　30,000円

使用済み切手・テレカ・入れ歯 収集ボランティア

令和6年6月1日～令和6年9月30日まで

使用済み切手・テレカ・入れ歯収集ボランティア・物品寄付にご協力いただきまして誠にありがとうございます。

- 丸尾　様
- 紀伊國屋　様
- 匿名　様　6件

野菜・食料品・物品の寄付

令和6年6月1日～
令和6年9月30日まで

皆様からたくさんのお野菜や食料品、物品の寄付をいただきました。生活に困っている人の支援や食事サービスに活用させていただきます。温かいご支援をありがとうございました。

野菜、果物	13種類	25件
食料品(お米、レトルト食品等)	8種類	8件
物品(紙おむつ、洗剤、文具等)	6種類	4件